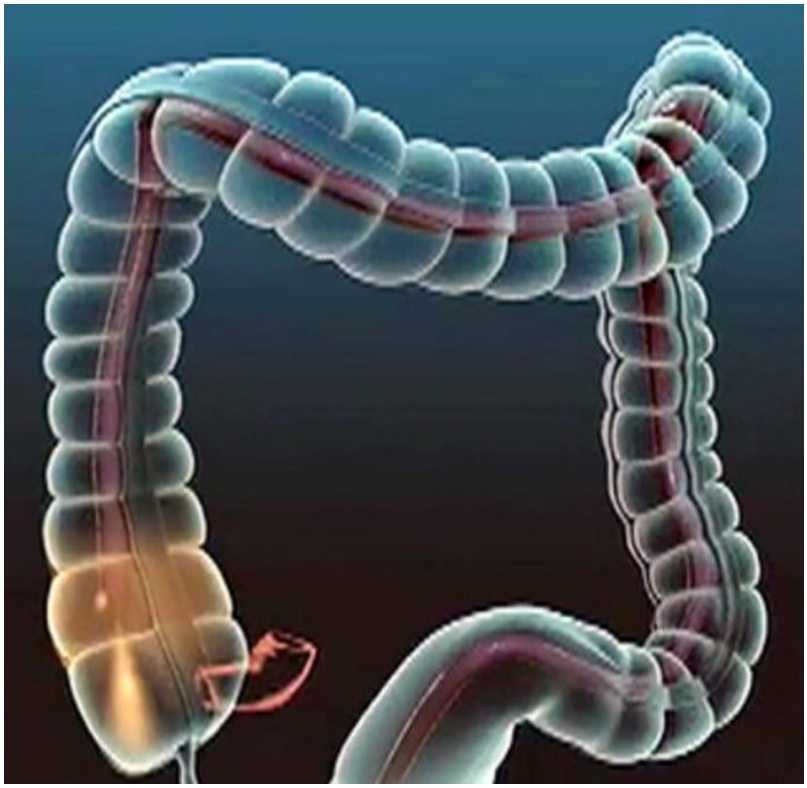
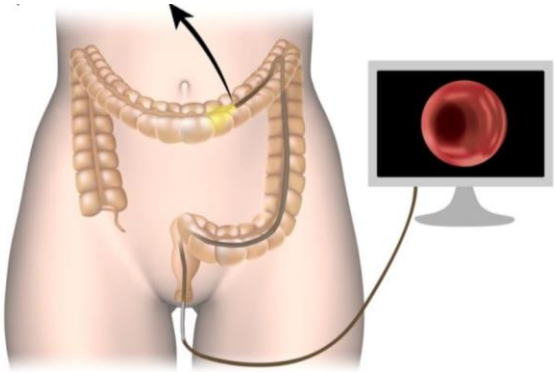
# 家族歴を考慮した大腸内視鏡検査

　このたび、大腸癌スクリーニングを家族歴で考慮したガイドラインが、以下の通りGastroenterology 誌に公開されました。



・一親等に一人の大腸がんまたは進行腺腫の人がいれば、便潜血検査よりも、大腸内視鏡検査を強く推奨する。検査は４０～５０歳または一親等が大腸がんになった年齢よりも１０歳若い年齢からの開始し、５～１０年に１回の大腸内視鏡検査と１～２年に１回の便潜血検査を行う。



・一親等に二人以上の大腸がんまたは進行腺腫の人がいれば、大腸内視鏡検査は４０歳または一親等が大腸がんになった年齢よりも１０歳若い年齢からの開始し、５年ごとに大腸内視鏡検査を行う。